



緑総の新たな挑戦～ルールを守る大切さ～

「緑園総合高校は自由で楽しい学校だから入学した。」

これは、夏季休業前の全校集会の後で、ある生徒から言われた言葉です。その全校集会で校長である私は次のように話しました。「社会で生きていく上で、高校卒業までに君たちが身につけておかなければならないことがいくつあると思う。その中にルールを守ることがある」「学校は、生徒のみんなに、社会に出るために必要な力をつけさせなければならない。ルールはある以上、守るといふ、人生の基本を教えなければならない。多くのルールがあり、すべてをいっぺんに徹底するのは無理があるので順番を決めて、徹底していく。まずは頭髪と服装。特に頭髪。」(以上、抜粋)

そして、9月22日の全校集会でも、同様の話をし、保護者の方々にも、繰り返し「お知らせ」を出して来ました。生徒の皆さんの中には「急にルールが厳しくなった」「こんなに厳しいのなら入学しなかった」等、不満の声をあげたい気持ちがあるようです。



制服のミニチュア

生活支援グループの職員、各年次の職員は意を決して、生徒の皆さんの気持ちを正面から受け止めながら指導をしています。

私は、社会に出て、法律や規則等に対して、「この程度は大丈夫だろう、誰も何も言わないから平気だ」等の、ルールに対する甘い認識から、失敗をさせたくないと思っています。職員も言葉は違ってもかもしれませんが、生徒の将来を考えて、生徒の思いを受け止めながら厳しいやりとりの中で指導に当たっています。

11月からは、頭髪に加えて服装指導の強化を進めています。ルールをそのままに守らせる。そして、そのルールは、

学校生活に専念し、自己を高め、「社会性を身につける」ために作られたものです。

生徒の皆さんが、社会に出て認められ、活躍できるように、緑総は一步を踏み出しました。決して簡単なことではありませんが、生徒の皆さんが「良き社会人」となることを願いながら、挑戦をし継続的努力をしたいと思ひます。

地域で活躍する緑総生～学校から飛び出す

10月26日(日)の「緑園福祉ふれあい祭り」にダンス部が参加しました。地域の小中学生やフェリス女学院大学の方々が参加するプログラムでの演技でした。



ダンス部の「R-crow」は夏のお祭りに続いての参加で緑園の催しの常連になりつつあります。

11月3日(月)には「泉区ふれあい祭り」の総合司会を朝から1日、演劇部の2年次の磯部さんと1年次の児玉さんが担当しました。泉区の担当者の方から、「とても新鮮な司会進行で良かったです」というお褒めの言葉をいただきました。

同じ11月3日(月)、緑園通信8号で扱った、本校の夏季特別講座のダンス受講者が、その後も練習を積み、「神奈川県青少年ダンス発表会」(県立青少年センター)に参加しました。全43団体の参加があった大きな大会でした。「個性」という題名で、1年次1組の住谷さん・深澤さん・澤村さんの3人がバレエを取り入れた創作ダンスを演じました。それぞれの個性を表現し、調和させたものです。ヒップホップ系のダンスが多い中で、異色の内容であったようです。講評では身体を鍛えあげていることとその内容の充実度への賞賛とさらに豊かにするための助言もいただいたそうです。励みにしてさらに高めてもらいたいものです。

校長 遠藤 誠